

平成 28 年度

安曇野市 協働事業事例集



平成 29 年 3 月

安曇野市 市民生活部 地域づくり課

1 協働事業事例集の趣旨・目的

近年、少子高齢化の進展、人口減少等、社会情勢が変化する中で、地域の課題や市民のニーズは多様化・高度化し、これまでの行政が中心に担ってきた公共サービスでは対応できない問題が山積しています。また、地方分権が進展し、市民が安全・安心に、心豊かに暮らせる安曇野市の地域づくりを進めていくためには、市民やNPOなどの市民活動団体、企業、教育機関、行政等、特性の異なる主体同士が、お互いの特性の違いを認め合い、対等な関係の中で、それぞれの強みを生かし、弱みを補完し合う「協働」によるまちづくりが求められています。

そのような背景から、安曇野市では、平成26年3月に「安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画」を策定し、これに基づき、協働を進めるための仕組みづくりに努めており、庁内各部局においては、それぞれ公共サービスの充実や市政の効率化に資する協働事業に積極的に取り組んでいます。

この協働事業事例集では、平成28年度に各部局で協働事業として実施された事業を収集し、掲載しています。「協働」することは目的ではなく、課題解決に向けた手段のひとつです。この事例集が、本市における協働推進の参考となり、それぞれの取り組みがより充実されることを期待して作成しました。

2 収集の対象とした協働事業

市民と行政がお互いの持つ特性を活かし、不足を補いながら、共に公共サービスの充実や市政の効率化に活かすなどの協働の視点で実施した事業。

(1) 協働の形態

共催、実行委員会、事業協力（協定）

(2) 行政（市）と協働するパートナー

自主的に地域の課題解決に携わる法人、団体等（国、地方公共団体、独立行政法人を除く）

（例）区（自治会）、PTA、企業、学校法人、社会福祉法人、医療法人、商工会議所・商工会
NPO、消防団、PTA、農業協同組合等


目次

平成 28 年度 個別協働事業（34 事業）

ページ	事業名	協働の相手方	事業担当課
4	安曇野市男女共同参画フォーラム2016	安曇野市男女共同参画フォーラム 実行委員会	総務部 人権男女共同参画課
5	平成28年度 人権の集い	松本人権擁護委員協議会安曇野部会 安曇野市企業人権教育推進協議会 安曇野市男女共同参画推進会議	
6	アルプス花街道	アルプス花街道実行委員会	市民生活部 豊科地域課
7	あづみ野祭り	あづみ野祭り実行委員会	
8	信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム)	岩原ひまわりクラブ	市民生活部 堀金地域課
9	不用食器リサイクル活動	不用食器リサイクル実行委員会	市民生活部 廃棄物対策課
10	光城山1000人SAKURAプロジェクト	光城山1000人SAKURAプロジェクト	市民生活部 地域づくり課
11	地域で共に生きようフェスティバル	地域で共に生きようフェスティバル実行委員 会	福祉部 福祉課
12	あづみのフィルムアーカイブ事業	あづみのフィルムアーカイブ	教育部 文化課
13	第26回 信州安曇野能楽鑑賞会	信州安曇野薪能実行委員会	
14	安曇野文化刊行事業	安曇野文化刊行委員会	
16	あづみの公園早春賦音楽祭	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会	
17	第5回 そば猪口アート公募展	そば猪口アート展実行委員会	
18	第12回 北穂高芸術展	北穂高芸術展実行委員会	
19	改組新第3回 日展工芸美術長野県入選者展	日展工芸美術長野県入選者実行委員会	
20	安曇野市美術館博物館連携事業	安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会	

ページ	事業名	協働の相手方	事業担当課	
22	安曇野さんぽ市2016Spring	安曇野さんぽ市実行委員会	教育部 図書館交流課	
23	安曇野スタイル2016	安曇野スタイルネットワーク		
24	安曇野百選プロジェクト	安曇野百選プロジェクト	商工観光部 観光交流促進課	
25	拾ヶ堰景観形成プロジェクト	拾ヶ堰景観形成プロジェクト		
26	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト		
27	三角島ふるさとの森プロジェクト	三角島ふるさとの森プロジェクト		
28	まちなかにぎわいプロジェクト	まちなかにぎわいプロジェクト		
29	安曇野やさいスイーツプロジェクト	安曇野やさいスイーツプロジェクト		
30	安曇野林檎ナポリタン	安曇野林檎ナポリタン		
31	信州安曇野北アルプスパノラマ銀座 山岳フェスタ	安曇野市山岳観光推進実行委員会		
32	第33回 早春賦祭り	早春賦祭り実行委員会		
33	安曇野オフネ祭り	安曇野オフネ祭り関係者		
34	第2回 信州安曇野ハーフマラソン事業	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会		
35	第32回 信州安曇野あやめまつり	あやめまつり実行委員会		
36	第33回 信州安曇野わさび祭り	信州安曇野わさび祭り実行委員会 YOSAKOI安曇野実行委員会		
37	第10回 安曇野花火	安曇野花火実行委員会		
38	第48回 観光草競馬大会	安曇野競馬愛好会		
39	安曇野市里山再生計画推進事業 (さとぶろ。)	市民・事業者・里山再生サポーター		農林部 耕地林務課

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市男女共同参画フォーラム 2016	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施 団体	相手側	安曇野市男女共同参画フォーラム 実行委員会	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生担当	

座談会の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	女性や子供の貧困、DV、デートDV、リベンジポルノ等、多様化する深刻な社会問題をテーマに、男女共同参画理念の重要性を考える。		
事業の目的	男女共同参画に関する様々な問題を提起し、意見交換することを通じて、市民の意識の啓発を図る。		
成果目標	性別に関わりなく、個性と能力を十分に発揮することができる社会や、自分らしく生きることの意義を再認識していただく機会となる。		
実施場所	市役所 大会議室	事業期間	平成 28 年 6 月 25 日
事業の概要	県男女共同参画審議会委員で心理カウンセラーの気賀沢葉子さんを講師に「女性（男性）相談の現場から」～なぜ人権尊重・男女共同参画を唱え続けなくてはならないか～をテーマとした基調講演とグループによる座談会を行った。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	実行委員会の開催・協議事項の決定（日程・企画・テーマの設定、講師選定、広報周知方法、準備運営の役割分担、当日の運営、等）
	相手側	事業運営全般（参加者の個別勧誘、展示物の作成・展示、当日の案内・受付・進行・スタッフへの指示、講師接待、会場準備・撤収）
	市側	会場確保、講師依頼、講師との連絡調整、広報・プレスリリース、チラシ作成・周知（施設設置、団体配布、個別案内郵送）会場看板等準備、当日運営補助、会場準備・撤収、駐車場確保・誘導）

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加者 85 名。「女性（男性）相談」の事例は、改めて男女共同参画事業推進の必要性を感じるものとなった。座談会では、相談への向き合い方の基本である「エンパワーメント」の難しさなどの意見交換が行われた。
協働による効果	実行委員会として同じ目標に向かって市民目線の事業が遂行できた。
課題・改善点	参加者の年齢層が高く固定化している。幅広い年齢層に向けてテーマを設定したつもりだったが、周知・広報に工夫が必要である。

【事業の名称等】

事業の名称		平成 28 年度人権のつどい	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	松本人権擁護委員協議会安曇野部会 安曇野市企業人権教育推進協議会 安曇野市男女共同参画推進会議	
	市側	総務部 人権男女共同参画課 人権男女共生担当	

人権作文で入選した生徒の皆さん

【事業の概要】

取組の背景・課題	地域の繋がりが弱くなってきている昨今、身近な場において人権について考え、お互いに人権を尊重し認め合う意識の高揚を図ることが重要となっている。		
事業の目的	あらゆる分野において差別や偏見をなくすとともに、一人ひとりが平等な立場で、個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指す。		
成果目標	市民の皆さんがお互いの人権を尊重する意識を持ち、身近な差別や偏見について考えることができる。		
実施場所	豊科公民館 大ホール	事業期間	平成 28 年 12 月 11 日
事業の概要	中学生による人権作文コンテスト優秀作品の朗読を聴き、純真な心に触れ、日頃忘れがちであった思いやりの心を再認識するとともに、松本サリン事件において被害を受けた河野義行さんにご講演いただき、皆が互いの人権をより一層大切に生活することを目的として実施する。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	打合せ、進行の役割分担、学校との調整、当日の運営
	相手側	受付補助、展示物の作成、作文表彰式の進行、作文の募集・選考、関連団体・個人への呼びかけ
	市側	開催にあたる準備、連絡調整等、チラシ作成・周知、広報、プレスリリース、講師派遣依頼・打ち合わせ

【実施結果】

成果目標の達成状況	約 350 名の来場者に人権尊重の意識を改めて確認いただいた。
協働による効果	差別や偏見をなくし、人権を尊重し合うことの周知に繋がった。
課題・改善点	若年層の参加が少ない。

【事業の名称等】

事業の名称		アルプス花街道	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	アルプス花街道実行委員会	
	市側	市民生活部 豊科地域課 地域担当	

事業実施場所の視察

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を訪れる皆さんを気持ちよくお迎えしようという機運が長野五輪を機に高まった。潤いのある地域づくりに向けて、市民と行政と一緒に汗を流し、協働によるまちづくりが必要とされている。		
事業の目的	安曇野へ訪れる人々を歓迎するとともに、自然と人にやさしいまちづくりを推進するため、住民の創意工夫による美しい景観の形成を目指すもの		
成果目標	80 団体以上の参加		
実施場所	県道柏矢町田沢停車場線沿線外	事業期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～平成 29 年 3 月 31 日
事業の概要	市内 10 箇所では花木等の植栽を実施する。花木の栽培は、実行委員会の構成団体で一定の区間を受け持ち、定植・水やり・除草等の管理を行う。5月から11月にかけて事業を行う。また、啓発活動を行い、本事業の取組を啓発する。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	マリーゴールドの植栽、管理
	相手側	実行委員会の運営、資材等の手配、植栽箇所の巡視
	市側	委託料の支払、事務局の補佐

【実施結果】

成果目標の達成状況	81 団体の参加があり、目標を達成することができた。
協働による効果	参加団体が事業箇所への花の植栽・管理を実施し、景観形成ができた。
課題・改善点	参加団体の都合もあり、無理はできないが、植栽時期の統一や草刈り等の管理に力を入れたい。また、参加団体・個人がより自発的に活動できるように支援していくこと。

【事業の名称等】

事業の名称		あづみ野祭り		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	あづみ野祭り実行委員会		
	市側	市民生活部 豊科地域課 地域担当		

あづみ野ばやし踊り

【事業の概要】

取組の背景・課題	住民相互のつながりが希薄となる社会情勢の中で、住みよい地域を構築するためには、地域のつながりの醸成が必要である。また、既存の商店の閉店が多くなる中、地元商店街を活性化させる必要性が生じている。		
事業の目的	あづみ野祭りを通じ、市民の連帯感と「心のふるさと」づくりに努め、観光の促進と文化厚生の発展に資し、かつ産業経済の進展に寄与することを目的とする。		
成果目標	地元自治会や企業などに呼びかけ、40連以上の踊り連に参加していただく。		
実施場所	国道147号（成相～新田） 及びその周辺	事業期間	平成28年7月30日
事業の概要	地元企業や自治会等の団体が踊り連を作り趣向を凝らした山車とともにあづみ野ばやし踊りを行う。会場は、豊科地域の中心部である国道147号及びその周辺で、交通規制を実施し、盛大に踊り連が練り歩く。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事務局の運営、交通防災対策、
	相手側	あづみ野祭りの企画立案、会計、踊り連の講習
	市側	補助金の交付、当日のスタッフの動員

【実施結果】

成果目標の達成状況	地元企業や自治会等の踊り連45連の参加があった。
協働による効果	商工会と行政が連携し、地域を盛り上げることができた。 参加団体の親睦が深まった。
課題・改善点	ごみの分別の徹底する対策が必要。スタッフ不足。

【事業の名称等】

事業の名称		信州ふるさとの道ふれあい事業 (アダプトシステム)		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他 ()		
実施団体	相手側	岩原ひまわりクラブ		
	市側	市民生活部 堀金地域課 地域担当		

協働で植えている様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	美化活動を通して子どもからお年寄り又は事業所、会社までが共に協力、交流をしながら、住みよい・美しい岩原区を作り上げ、地域活性化を図るために活動が始まる。平成25年7月2日に岩原ひまわりクラブ・市・安曇野建設事務所で3者協定を結ぶ。		
事業の目的	長野県が管理する道路において、地域住民が主体で行う道路の美化活動を行政が支援し、生活空間の一部である道路への愛着心を深めていただき、地域環境の向上を図る。		
成果目標	花の植栽や美化清掃作業等により、活動区間を良好な環境に保つ。		
実施場所	主要地方道塩尻鍋割穂高線 (堀金烏川(岩原)地区)	事業期間	平成28年5月~11月
事業の概要	岩原ひまわりクラブは、地域住民と協力し、歩道及び歩道に設置された植樹帯等に花などを植え、良好な地域環境の保持を努める。市は、岩原ひまわりクラブ及び建設事務所との連絡調整を行うとともに、岩原ひまわりクラブが収集したゴミの処理に協力する。建設事務所は、活動区間に団体名等を記載した表示板を設置するとともに、岩原ひまわりクラブの希望により、必要な清掃用具、材料等を貸与又は支給する。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	無し
	相手側	歩道及び歩道に設置された植樹帯等の美化清掃作業
	市側	ゴミの処理

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動区間の美化のため、各々の役割分担により、花の植栽等を実施した。
協働による効果	道路の美化と地域環境の向上
課題・改善点	市民への広報と処理するまでのゴミの置き場所

【事業の名称等】

事業の名称		不用食器リサイクル活動	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	不用食器リサイクル実行委員会	
	市側	市民生活部 廃棄物対策課 廃棄物対策担当	

不用食器リサイクル

【事業の概要】

取組の背景・課題	家庭から排出される不用となった食器は、不燃ごみとして埋め立て処分しているが、循環型社会の形成推進の観点からリユース及びリサイクルを図る必要がある。		
事業の目的	ごみ減量化対策の一環である循環型社会の形成推進を図る。		
成果目標	市民と協働で不用食器の回収を行ってリユースの場を提供し、不燃ごみの減量化と資源の有効活用につなげる。		
実施場所	穂高プール駐車場	事業期間	平成 28 年 9 月 25 日～27 日
事業の概要	平成 28 年 9 月 25 日に不用食器の集団回収を行い、同会場に再配布スペース（「もったいない市」）を設け、9 月 25 日から 27 日の間、希望者に再配布を行った。また、10 月 8、9 日開催の「安曇野市環境フェア 2016」でも「もったいない市」を実施し、不用食器の再配布を行った。 なお、回収した食器の内、約 4.6 トンを陶土の原料として再生利用するため、岐阜県土岐市の中間処理業者に運搬し、資源の有効活用を図った。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場準備・片付け
	相手側	不用食器の仕分けや搬入者の誘導等、再利用スペースの運営
	市側	回収場所の提供、不用食器の運搬・運搬費用の負担・住民への広報、中間処理業者への視察研修の手配

【実施結果】

成果目標の達成状況	概ね達成できた。
協働による効果	主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	①駐車スペースの拡大 ②開催期間延長の検討

【事業の名称等】

事業の名称		光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	光城山 1000 人 SAKURA プロジェクト	
	市側	市民生活部 地域づくり課 まちづくり推進係	

市民参加による本年度の植栽事業

【事業の概要】

取組の背景・課題	桜の名所である光城山の桜は老木化が進み、また外来植物なども入り込んでいるなど、周辺環境保全や里山保全が大きな課題となっている。		
事業の目的	老木化が進む光城山の桜の補植を行い、通称「昇り龍」を後世に残していくと共に、周辺自然環境の保全、地域の歴史文化の伝承等に取り組む。また、地元の皆さんをはじめとする多くの市民及び関係機関、並びに桜を通じたネットワークを構築し、市民が主役の協働の基盤を強化し、一体感の醸成を図る。		
成果目標	登山等中腹に 60 本の桜の苗木の植栽。歴史講座の開催により、光城山の関心を高める。桜の維持管理等に関わる団体のネットワークづくり。		
実施場所	光城山 他	事業期間	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 つのテーマ（分科会）による研究及び事業推進。 ・ プロジェクトによる登山道中腹への桜の苗木の植栽。（60 本） ・ 城山としての歴史を知る講座の開催。（座学編、現地編） ・ 桜に関わる団体交流会の開催。（桜・SAKURA 交流会） 		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業計画の検討、各事業準備作業、各事業運営
	相手側	鹿対策防護柵の作成、桜の生育管理、各団体のとりまとめ など
	市側	予算の執行、事業の進捗管理、保険加入、各事業参加者のとりまとめ、広報 など

【実施結果】

成果目標の達成状況	十分に達成できた。
協働による効果	双方の主体的な役割分担により、事業を効果的に実施することができた。
課題・改善点	植栽した桜の生育管理。各分科会事業の推進。

【事業の名称等】

事業の名称		地域で共に生きようフェスティバル	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	地域で共に生きようフェスティバル 実行委員会	
	市側	福祉部 福祉課 障がい福祉担当	

昨年度開催したフェスティバル（隔年開催）

【事業の概要】

取組の背景・課題	精神疾患・精神障がいへの正しい知識については未だ十分に浸透していない状況であり、精神障がい者の地域での自立等社会復帰を妨げる要因となっていることから、当事者を取り巻く環境の改善や理解促進が課題となっている。		
事業の目的	精神疾患・精神障がいに関する普及啓発活動として交流事業		
成果目標	精神障がい者に対する肯定的なイメージ形成、偏見の除去・軽減		
実施場所	穂高交流学習センターみらい	事業期間	～
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障がい者と地域住民が交流できるイベントの企画・実施 ・安曇野市内の障害福祉サービス事業所や事業所の活動周知 		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	地域で共に生きようフェスティバルの開催
	相手側	実行委員会開催において具体的な実施計画の策定
	市側	会場調整・実施計画の策定

【実施結果】

成果目標の達成状況	隔年での実施となっており、今年度は実行委員会にて実施に向けた計画を策定中
協働による効果	精神保健福祉に係る事業所等の情報共有
課題・改善点	地域課題の共有、ネットワークの強化、予算の確保。

【事業の名称等】

事業の名称		あづみのフィルムアーカイブ事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あづみのフィルムアーカイブ	
	市側	教育部 文化課 文化財保護係	

朗人大学「よみがえる安曇野」上映会

【事業の概要】

取組の背景・課題	昨年度、市民提案による市制施行 10 周年記念事業として映画「よみがえる安曇野」を制作。その際に、各家庭等に眠る 270 本余りの 8 mm フィルムの提供があったが、すべてのデジタル化はできなかった。また、それ以降、新たに提供を受けたフィルムもあるため、さらにデジタル化を進め、映像史料としての保存活用に努める。		
事業の目的	「よみがえる安曇野」上映会の開催 映像史料のデジタル化を進め博物館等での保存活用を図る		
成果目標	8 mm フィルムデジタル化…24 本／上映会回数（箇所数）10 回以上		
実施場所	安曇野市内	事業期間	平成 28 年 9 月～平成 29 年 3 月
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 出前講座「よみがえる安曇野」上映会の開催／「ホームムービーの日」の開催 ◎ 新たな 8 mm フィルムの収集（「よみがえる安曇野」上映の際に呼びかける。） ◎ 8 mm フィルムのデジタル化（DVD） 		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	映像使用等許可関係 上映会の開催 事業報告書の作成
	相手側	HP 開設・チラシ作成 フィルムのデジタル化
	市側	広報掲載 フィルム提供関係事務

【実施結果】

成果目標の達成状況	デジタル化したフィルム 24 本→30 本 「よみがえる安曇野」上映会開催箇所数 10 箇所→18 箇所 「よみがえる安曇野」年間視聴者総数 500 人→800 人
協働による効果	視聴された皆さんの様子、生の声を聴くことができ、今後の映画制作、映像史料の活用などに活かすことができる。
課題・改善点	8 mm 提供に地域的の偏りがある。特に、これまで提供が少なかった地域のフィルム収集に心がける。

【事業の名称等】

事業の名称		第26回 信州安曇野能楽鑑賞会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野薪能実行委員会	
	市側	教育部 文化課 文化振興係	

能「紅葉狩」の一場面

【事業の概要】

取組の背景・課題	「信州安曇野薪能」は、平成3年から平成17年まで「水郷明科薪能」を継承し、平成18年から「信州安曇野薪能」として開催されている。観世流能楽師の青木道喜師の主宰により、出演者に観世流の名家、京都片山家の片山九郎右衛門師、和泉流狂言師の野村萬師をはじめ、当代一流の先生方をお迎えしており、市民が一流の文化芸術にふれる貴重な機会となっている。		
事業の目的	格調高い能公演の実施を通して、観世流能楽師で重要無形文化財保持者の栄誉を受けられ、安曇野市名誉市民でもある故青木祥二郎先生（安曇野市明科中川手出身）の業績を顕彰し、安曇野市の芸術文化の向上と観光振興を図る。		
成果目標	観客数 610 人を目標とする（会場の豊科公民館ホールの収容人数が最大 610 人）		
実施場所	豊科公民館ホール	事業期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
事業の概要	<p>講演の期日 平成 28 年 8 月 20 日</p> <p>演目 舞囃子「天鼓」 能「融」 狂言「鐘の音」 能「紅葉狩」</p> <p>主な出演者 片山九郎右衛門、青木道喜、宝生欣哉、野村萬ほか</p> <p>実行委員会は年 4 回の会議を開催し、資金の調達（企業への協賛依頼、協賛金の集金、入場券販売等）ほかの準備を行い、公演当日は会場設営、出演者の接待、来場者への案内等サービス、会場の管理、撤収作業（一部）までを行う。</p>		

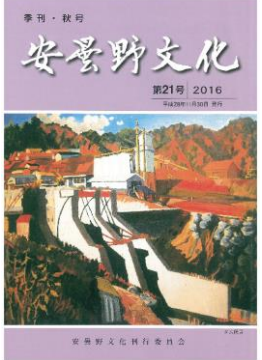
【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場設営、広報
	相手側	企業への協賛依頼等資金集め、入場券販売
	市側	補助金による活動の補助、能装束展（会場 穂高交流学習センター みらい）

【実施結果】

成果目標の達成状況	入場者数 565 人
協働による効果	会場となる龍門淵公園が利用できず、豊科公民館ホールでの開催となったが、スタッフには「水郷明科薪能」が始まった当初から関わっているメンバーも多く、明科地域独自のつながりを生かした運営により、資金集めや入場券販売、当日の会場の運営までスムーズに行う事ができた。また、豊科芸文協・交通安全協会豊科支部もスタッフに加わっていただき、豊科地域からも多く来場いただいた。
課題・改善点	会場が豊科だったため豊科地域からの来場者が多かった。今後も安曇野市全域に認知度を高める取り組みが必要と考えられる。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野文化刊行事業		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（市は事務局）		
実施団体	相手側	安曇野文化刊行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興係		

安曇野文化第 21 号表紙

【事業の概要】

取組の背景・課題	<p>刊行の経過</p> <p>三郷地域において刊行されていた「三郷文化」が平成 23 年夏号をもって創刊 30 年を迎えるにあたり、区切りをつけ、以降「安曇野文化」として刊行することを検討し、平成 23 年 5 月に安曇野文化刊行委員会が発足した。平成 23 年秋からの「安曇野文化」創刊に向けて「安曇野文化」編集委員会を組織し、平成 23 年 11 月 30 日に創刊号を発行した。購読者は数を増やすことが目下の課題であり、さらに PR に力を入れる必要性が感じられる。</p>										
事業の目的	<p>安曇野の恵まれた文化を広く見つめ、ふるさとの自然と歴史、文芸、教育、産業、生活等の万般の文化に更に光を当て、広く市民に享受していただくと共に、地域文化を創造し大切にすることによって、地域の活性化と一層の安曇野市の文化の発展を期待することを目的に季刊誌「安曇野文化」をつくる。</p>										
成果目標	<p>購読者数は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷文化最終号…約 460 名 ・安曇野文化創刊号…約 500 名（平成 23 年 12 月 9 日現在）となっており、平成 29 年 1 月現在で 523 名である。購読者数を 600 名まで増やしたい。 										
実施場所		事業期間	～								
事業の概要	<p>「安曇野文化」発刊</p> <table border="0"> <tr> <td>第 19 号（春号）</td> <td>平成 28 年 5 月末</td> </tr> <tr> <td>第 20 号（夏号）</td> <td>平成 28 年 8 月末</td> </tr> <tr> <td>第 21 号（秋号）</td> <td>平成 28 年 11 月末</td> </tr> <tr> <td>第 22 号（冬号）</td> <td>平成 29 年 2 月末（予定）</td> </tr> </table> <p>刊行委員会は年度当初に開催し、年 4 回の発行に合わせて編集委員会を開催する。編集委員会は執筆者の選定からはじまり各号を購読者に届けるまでの実務を行う。購読料と安曇野市からの補助金により事業を行う。</p>			第 19 号（春号）	平成 28 年 5 月末	第 20 号（夏号）	平成 28 年 8 月末	第 21 号（秋号）	平成 28 年 11 月末	第 22 号（冬号）	平成 29 年 2 月末（予定）
第 19 号（春号）	平成 28 年 5 月末										
第 20 号（夏号）	平成 28 年 8 月末										
第 21 号（秋号）	平成 28 年 11 月末										
第 22 号（冬号）	平成 29 年 2 月末（予定）										


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	・ 刊行委員会、編集委員会の開催 ・ 購読者数増に向けての取り組み
	相手側	・ 各号の原稿依頼と収集、編集作業、発行、配布
	市側	・ 事務局を担当

【実施結果】

成果目標の達成状況	新規の購読者も獲得しているが、従前の購読者の高齢化により購読停止とほぼ同数であり、全体としての購読者数はほぼ横這い状態である。 平成 28 年秋からいくつかの地元の書店や市内施設でも販売をお願いすることができた。今後につなげたい。
協働による効果	三郷地区に限定されていた内容が市全域を扱うようになり、編集委員、執筆者とも市全域から募り、それぞれの地区で活動いただいている。 委員の活動により購読者が市内全域に広がり、市内外の方々に、安曇野について広く知っていただくことに繋がった。
課題・改善点	購読者増

【事業の名称等】

事業の名称		あづみの公園早春賦音楽祭		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	あづみの公園早春賦音楽祭実行委員会		
	市側	教育部 文化課 文化振興係		

アルプホルン体験に参加する中学生

【事業の概要】

取組の背景・課題	「あづみの公園早春賦音楽祭」は国営アルプスあづみの公園を舞台に開催している音楽祭で、同時期に市内で開催している「早春賦音楽祭（本ステージ）」との一連の行事として平成17年から始まり、平成28年度で12回を数えた。		
事業の目的	若者の健やかな成長の場となることを願うという主旨のもと、安曇野から全国へ歌声を響かせようという目的で、公園内に複数のステージを設置して歌や演奏を行なう音楽祭を開催する。例年、市内外小・中学校合唱部、市内中学・高校吹奏楽部も多く出演している。未来を担う子どもたちにとっても、心ひとつに音楽に親しみ、他の出演者と共演し、多くの人々と感動を共にすることのできる貴重な機会とする。		
成果目標	来場者数 16,000 人		
実施場所	国営あづみのアルプス公園 (堀金穂高地区)	事業期間	平成28年5月4日
事業の概要	オープニング演奏、早春賦合唱、市内中学校・高等学校吹奏楽部による演奏、FM長野公開録音ステージ（重唱・合唱コンクール優秀校の歌声、音楽交流広場）、太鼓とし演舞のステージ、自由ステージ、公募ステージ、コンサートなど特別ゲスト：折井清純氏（マンドリン）、棟居淳氏（ギター・ウクレレ）のステージほか		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会場設営、当日の運営
	相手側	実行委員会の会議開催、当日までの各団体の連絡調整、
	市側	補助金交付による資金援助、運営補助

【実施結果】

成果目標の達成状況	来場者数 15,114 人
協働による効果	安曇野の文化振興に寄与する事業であり、協働で取り組んだことにより学校関係、市民への広報を充実させることができた。また市内施設等の利用の面において市側が協力することで、より多くの市民が参加することができた。
課題・改善点	市内の小中、高校生の参加のため市のバスを運行しているが、これ以上参加人数が増えると対応しきれなくなる。来場者のための駐車場の確保と交通手段についての検討が必要と考えられる。

【事業の名称等】

事業の名称		第5回そば猪口アート公募展	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	そば猪口アート展実行委員会	
	市側	教育委員会教育部文化課文化振興係 安曇野高橋節郎記念美術館（担当）	

入選作品の展覧会風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	実行委員会にはそれぞれ公募に出展してくれそうな作家の所属する団体に入っている。入選作品が多くなり、展示スペース、作業人員が大きくさかれる。		
事業の目的	現代工芸美術の世界で活躍した高橋節郎の顕彰の一環として始めて5回を迎えた。		
成果目標	応募作品をより多く		
実施場所	安曇野高橋節郎 記念美術館外	事業期間	展示 平成28年10月4日～11月6日
事業の概要	素材を問わず、加飾したそば猪口の公募展。実行委員会には出品してくれそうな作家が所属する団体が加入。今回は第5回を数え287点の応募作品があり、134点を入選作品として展示した。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	選考会
	相手側	応募作品の呼びかけ、周知
	市側	事務局、展示、表彰式開催、作品の受付、返送など

【実施結果】

成果目標の達成状況	応募作品は300点近く集まりそれなりの達成。
協働による効果	より多くの方に出品いただけた。
課題・改善点	応募だけでなく、もう少し市内の方への公募展へ興味を持ってもらいたい。

【事業の名称等】

事業の名称		第 12 回北穂高芸術展		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	北穂高芸術展実行委員会		
	市側	教育委員会教育部文化課文化振興係 安曇野高橋節郎記念美術館（担当）		

展覧会風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	展示の場所が展示室ではないところが少し危ない。出品者が高齢化してやや展示作品が少なくなりつつある。		
事業の目的	高橋節郎美術館の周辺の地区にゆかりのある方々の芸術作品を展示し、当館を交流の場として利用してもらう。		
成果目標	応募作品をより多く。		
実施場所	安曇野高橋節郎 記念美術館	事業期間	展示 11月12日～27日
事業の概要	高橋節郎の出身地の北穂高地区の芸術展として、北穂高地区にゆかりのある方、在住の方の作品を展示。		

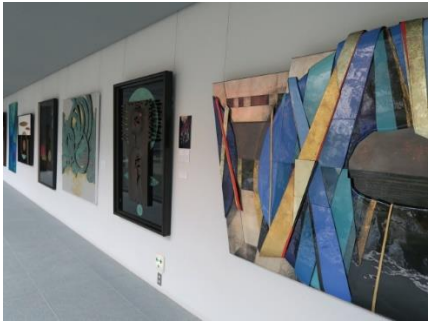
【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	会議
	相手側	展示者への呼びかけ、展示作品提供
	市側	事務局、展示など

【実施結果】

成果目標の達成状況	展示作品は 51 作品と例年並みに集まった。
協働による効果	より多くの方に出品いただけた。
課題・改善点	出品者の高齢化。

【事業の名称等】

事業の名称		改組新第3回日展工芸美術長野県入選者展	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	日展工芸美術長野県入選者実行委員会	
	市側	教育委員会教育部文化課文化振興係 安曇野高橋節郎記念美術館（担当）	

展覧会風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	展示の場所が展示室ではないところが少し危ない。		
事業の目的	高橋節郎の顕彰の一つとして、節郎の活躍の場の一つであった日展の入選者で、長野県在住の作家とその作品の紹介をし、工芸美術作品を身近に鑑賞してもらう。		
成果目標	円滑な準備と展示		
実施場所	安曇野高橋節郎 記念美術館	事業期間	展示 平成28年12月13日 ～平成29年3月7日
事業の概要	日展の入選者で、長野県在住の作家とその作品の紹介		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	展示
	相手側	展示者への呼びかけ、展示作品提供、展示作業、作品の運搬
	市側	事務局、作品の撤収、広報物作成

【実施結果】

成果目標の達成状況	見学者がより多く。
協働による効果	22作品、多くの方に出品いただけた。
課題・改善点	ポスターの作成を来年度は考慮したい。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市美術館博物館連携事業
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）
実施団体	相手側	安曇野市美術館博物館連携事業 実行委員会
	市側	教育部 文化課 文化振興係



あづみの学校ミュージアムの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市内には 20 以上の美術館や博物館があり、文化芸術に触れる場が多く提供されている。一方で各施設の規模が小さい、効果的な広報活動や教育普及活動ができないなどの課題を抱えている。 ・平成 24 年 2 月実行委員会発足。文部科学省の補助金を得て、平成 24 年度から事業実施。 		
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の博物館及び美術館の連携事業の実施を通して、安曇野市の芸術文化の向上並びに観光振興を図るために、事業の円滑な運営にあたる（実行委員会規約より）。 ・各施設が連携することにより、市内の美術館博物館が全体として地域文化の振興の核としての役割を果たし、安曇野市としての一体感の醸成に寄与する。 		
成果目標	「ギャラリートークリレー」参加者 1,200 人以上		
実施場所	安曇野市内の美術館、博物館	事業期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～平成 29 年 3 月 31 日
事業の概要	<p>1 ギャラリートークリレー 対象は一般来館者。作品理解のためのギャラリートークを連続して受けられるよう各施設で実施時間を調整、工夫して実施する。来観者の満足度を上げることを目標とし、さらに美術館博物館の学芸員等の資質向上を目指す。職員が直接来観者に接し、積極的にギャラリートーク行う事で来観者のニーズを把握し、スタッフのスキル向上を図る。</p> <p>2 出前展覧会 各施設が収蔵する作品を、市民が集まる場所で展示し、そこを訪れる人に作品に触れる機会を提供する。</p> <p>3 あづみの学校ミュージアム 各施設が収蔵する作品を学校で展示し、ギャラリートークと併せて鑑賞教育を行う。準備段階より学校の担当教員との連携を図り、相互の意見のすり合わせと認識の共有を行うことでより効果的な鑑賞の機会となるよう努める。</p>		

	<p>4 外国語パンフレット</p> <p>近年増加する外国人利用者への対応の足がかりとして、英語及び中国語2語（繁体字・簡体字）に対応したパンフレットを制作する。パンフレットはそれぞれの館ごとのものを同一の書式・デザインで制作し、各館に設置する。</p> <p>5 学芸員研修会</p> <p>実行委員会に参加する施設の学芸員や職員の参加を募り、地域とともにある美術館博物館の在り方を学ぶ機会とする。</p>
--	---


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	企画立案、実施内容の検討
	相手側	事業の実施
	市側	印刷物等の制作、広報、日程調整、会計事務

【実施結果】

成果目標の達成状況	ギャラリートークリレー参加者数：1,220人
協働による効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある様々な美術館・博物館について興味を持ってもらうことができた。 ・安曇野市の魅力を各方面に発信することができた。
課題・改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の組織体制や役割分担などを再検討する必要がある。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野さんぽ市 2016Spring		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野さんぽ市実行委員会		
	市側	教育部 図書館交流課 図書館交流担当		

出展者ブースでのワークショップ風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	ものづくり作家(アマチュアも含む)や職人自身と、使う人が直接顔を合わせ、出会う場所、散歩気分で立ち寄って交流できる場を創出することを目的とした事業。		
事業の目的	作家(出展者)と市民、あるいは作家、市民同士の交流の促進。会場である穂高交流学習センターを多くの方に親しんでもらい、交流の場としての役割を果たす。		
成果目標	参加者(施設)100組達成と、人の出会いや交流の創出、それらの場としての施設の定着。		
実施場所	安曇野市穂高交流学習センター 「みらい」	事業期間	平成28年5月21～22日
事業の概要	安曇野にて活動するものづくり作家や職人たちが主に出展者となり、手づくり品の展示・販売・ワークショップを行う。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	説明会開催、区画割り、催事当日の運営(設営・撤収含む)及び管理、告知
	相手側	参加者の問い合わせ対応、支出管理、広報等
	市側	参加・区画の事前受付、施設の貸出し、敷地内の管理等

【実施結果】

成果目標の達成状況	参加数100組は達成。来場者にはおおむね好評。「安曇野さんぽ市」の認知度は向上しており、交流の場として市民に定着しつつある。
協働による効果	交流する場の創出と穂高交流学習センターの地域住民への定着。
課題・改善点	学習や交流のため、参加者に夜実演やワークショップの実施の促進。参加者、来場者増加による駐車場問題。熱中症への対策。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野スタイル 2016		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野スタイルネットワーク		
	市側	教育部 図書館交流課 図書館交流担当		

参加施設でのワークショップの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野のローカル情報を集めたマップ発行の目的から組織が立ちあげられ、そのマップを片手に安曇野を巡ってもらう「安曇野スタイル」へと発展。安曇野の魅力を全国に、また、地域の人々にも伝えるべく、市民レベルの活動に留まらず、行政と共に地域を活性化させることが背景にある。地元住民への当活動の認知と浸透をいかに広げるかが課題。		
事業の目的	安曇野を拠点、活動場所とする作家や施設が普段とは違うおもてなしを行うことで、人の交流を生みだし、地域と文化の発展に繋げる。		
成果目標	期間内の誘客数増加と人々の交流創出、地域及び文化の向上・発展。		
実施場所	安曇野市内外の各参加者施設他 95 会場	事業期間	平成 28 年 11 月 3～6 日
事業の概要	安曇野地域にて活動する作家、工房、飲食店、宿泊施設などが、一定期間、安曇野に暮らす人、安曇野へ訪れる人のために期間限定のおもてなし(体験等)を行う。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	説明会開催、作品展示の搬入出、安曇野スタイル開催の告知等
	相手側	ガイドマップ製作、参加施設(者)取りまとめ、支出管理、協賛施設への連絡等
	市側	ガイドマップ配布、参加施設(者)有志の作品展示・管理、スタイル期間中の総合案内、ワークショップなど催事場所の提供等

【実施結果】

成果目標の達成状況	概ね好評。昨年度と比較するとほぼ横ばい。
協働による効果	安曇野への来訪者や安曇野に暮らす人々の交流の創出、地域文化の振興。
課題・改善点	この活動に対する地元住民の認知度を高めること。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野百選プロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）	
実施団体	相手側	安曇野百選プロジェクト	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当	

穂高駅での写真展示

【事業の概要】

取組の背景・課題	市内のNPO等で景観まちづくり活動を行ってきた市民有志が中心となり、2008年10月に設立。		
事業の目的	市民が安曇野の身近な景観に目を向け、市民主体の景観育成活動へつなげていく		
成果目標	風景投稿サイトの企画運営、景観育成イベントの実施		
実施場所	市内	事業期間	平成28年4月1日 ～平成29年3月31日
事業の概要	風景投稿サイト「ビューポイントあづみの」「ビューポイント信州の山」運営 投稿写真を活用した公共施設などでの展示 百選ウォークラリーの開催、安曇野みちあかりの開催 安曇野百選瓦版の発行、リゾートビューのおもてなし		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動を通じて多くの方に身近な景観の魅力をPRできた。
協働による効果	県の元気づくり支援金申請作業など事務作業の役割分担の効率化
課題・改善点	イベント当日スタッフ人数

【事業の名称等】

事業の名称		拾ヶ堰景観形成プロジェクト		
協働の形態		1. 共催	2. 事業協力（協定）	
		3. 実行委員会	4. その他（プロジェクト）	
実施団体	相手側	拾ヶ堰景観形成プロジェクト		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当		

春のじてんしゃひろば

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 20 年 5 月に設立。当時、荒廃していた中萱「じてんしゃひろば」の花壇整備に着手。現在では、春には芝桜が一面に広がるビューポイントとして、多くの人が集まる憩いの広場となっている。		
事業の目的	「じてんしゃひろば」花壇の維持管理。		
成果目標	安曇野市を代表するビューポイントとしての景観を維持する。		
実施場所	拾ヶ堰	事業期間	平成 28 年 4 月～ 平成 28 年 11 月
事業の概要	「じてんしゃひろば」の花壇整備。 ・芝桜の植栽・散水。 ・除草作業や花壇周辺の清掃等、月 2 回の定例作業を行う。		

【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業全般。
	相手側	花壇の定例作業。
	市側	メンバーへの連絡・調整、広報活動、作業支援。

【実施結果】

成果目標の達成状況	きれいに花壇が整備され、多くの方が訪れている。
協働による効果	地元の方に作業いただくことにより、こまめに花壇の手入れがされている。
課題・改善点	作業メンバーが十分に確保されていないこと。

【事業の名称等】

事業の名称		屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）	
実施団体	相手側	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当	

砺波市への視察の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	県の景観育成サポーターとして屋敷林の保全活動等を行ってきた市民有志が中心となり、2008年5月に設立。		
事業の目的	屋敷林を含む歴史的まちなみを生かしたまちづくり		
成果目標	屋敷林フォーラムの開催など啓発活動の開催		
実施場所	市内各所	事業期間	平成28年4月1日 ～平成29年3月31日
事業の概要	屋敷林フォーラムの開催、安曇野屋敷林サポーター通信の発行 屋敷林見学会の開催、落ち葉拾いボランティアの実施 先進地視察（H28年度は富山県砺波市）		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動を通じて多くの方に屋敷林の魅力をPRできた。
協働による効果	事務作業・役割分担での効率化
課題・改善点	イベント時のスタッフ人数

【事業の名称等】

事業の名称		三角島ふるさとの森プロジェクト		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）		
実施団体	相手側	三角島ふるさとの森プロジェクト		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当		

三角島の水に親しむ集い開催の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧ブランドデザイン会議時代に市が発足させた市民プロジェクト事業の1つ。県による万水川の氾濫の復旧対策工事に対して景観・環境保全を訴える団体が前身。平成21年の発足直後に、県と市と三者で河川アダプトを締結し、定期的に三角島の環境整備を実施。また自然観察やスケッチイベントを開催している。		
事業の目的	市民主体で三角島の豊かな自然環境を後世に継承していくこと		
成果目標	環境整備 イベント運営		
実施場所	三角島	事業期間	平成28年4月～平成29年3月
事業の概要	アレチウリの駆除 三角島自然観察会の開催 スケッチ大会の開催 過去のスケッチ大会入賞作品を掲載した冊子の作成 環境フェアへの出展		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	イベントの企画、運営・会計
	市側	広報・イベント参加申し込み受付

【実施結果】

成果目標の達成状況	イベントを通じ、三角島の自然について広く周知することができた。
協働による効果	役割分担の効率化と課を超えた連帯
課題・改善点	イベント参加人数の減少

【事業の名称等】

事業の名称		まちなかにぎわいプロジェクト		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）		
実施団体	相手側	まちなかにぎわいプロジェクト		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当		

穂高ハロウィン

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 20 年 5 月に、豊科地域と穂高地域の既存商店街を活性化するために活動する団体として設立。		
事業の目的	商店のみならず周辺の住民を巻き込んだ活性化策の推進。		
成果目標	商店街の交流人口拡大。		
実施場所	豊科・穂高の商店街	事業期間	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
事業の概要	商店街での花の植栽。各種イベント（一箱古本市、ハロウィン、穂高あめ市タイアップイベント、まちゼミ等）を実施している。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	イベント等の企画、実施。
	市側	メンバーへの連絡・調整、広報活動、イベント開催支援。

【実施結果】

成果目標の達成状況	イベント等の開催により、多くの方に地元商店街へ足を運んでいただいている。
協働による効果	地元のメンバーが企画・実施することにより、地域の実情を活かしたイベントの開催が図られている。
課題・改善点	新たなプロジェクトメンバーの確保。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野やさいスイーツプロジェクト	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（プロジェクト）	
実施団体	相手側	安曇野やさいスイーツプロジェクト	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当	

安曇野やさいスイーツ

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 22 年「安曇野ブランドデザイン会議」の事業として、野菜スイーツの取組がスタートし、会議が解散した後もメンバーが主体となり継続運営されています。		
事業の目的	安曇野産の新たな食の魅力を発信をすること		
成果目標	安曇野やさいスイーツフェアの実施		
実施場所	市内	事業期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～平成 29 年 3 月 31 日
事業の概要	安曇野市内の菓子店やホテルでつくる「安曇野やさいスイーツプロジェクト」第 7 回となる 2016 年は 10 月 8 日～11 月 6 日の 1 か間「安曇野産さつまいも」をテーマに開催。期間中はシールラリーも開催し、複数のお店を回った方へは、抽選でやさいスイーツ商品券をプレゼントする取り組みも行った。 フェア最終日の 11 月 5 日（土）・6 日（日）には穂高神社で開催される「第 4 回新そばと食の感謝祭農林業まつり」にも出店。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営・会計
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	活動を通じて多くの方に安曇野やさいスイーツの魅力を発信できた
協働による効果	活動また事務作業の役割分担における効率化
課題・改善点	PR 活動の強化

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野林檎ナポリタン		
協働の形態		1. 共催	2. 事業協力（協定）	
		3. 実行委員会	4. その他（メニュー開発）	
実施団体	相手側	安曇野林檎ナポリタン （安曇野調理師会、商工会飲食分科会、 松本大学矢内研究室等）		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当		

安曇野林檎ナポリタン

【事業の概要】

取組の背景・課題	市、安曇野調理師会、安曇野市商工会飲食分科会、松本大学矢内研究室等の協力により平成 25 年に開発したご当地グルメ。安曇野産りんごのPRも行っている。		
事業の目的	安曇野林檎ナポリタンの提供および振興		
成果目標	飲食店での安曇野林檎ナポリタンの提供		
実施場所	市内各所	事業期間	平成 28 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日
事業の概要	参加店の勧誘、PRチラシの作成、グルメ大会等への参加等PR活動		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	事業全般
	相手側	事業の企画・運営
	市側	資料作成・広報

【実施結果】

成果目標の達成状況	28年度は市内外12店舗にて提供し、過去最高となった。
協働による効果	事務作業・役割分担での効率化
課題・改善点	認知度の向上

【事業の名称等】

事業の名称		信州安曇野北アルプスパノラマ銀座 山岳フェスタ	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野市山岳観光推進実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 ブランド推進担当	

アウトドアブランドによる展示販売

【事業の概要】

取組の背景・課題	平成 26 年「信州山の日」、平成 28 年国民の祝日「山の日」施行を受け、山岳観光振興の一層の推進を図っていく事業の一つとして企画。		
事業の目的	北アルプスパノラマ銀座の魅力を多くの皆様に知っていただく。		
成果目標	北アルプスエリア（山岳・平地）の魅力発信、登山客層の底辺の拡大。		
実施場所	安曇野スイス村 サンモリッツ	事業期間	第 1 部 平成 28 年 7 月 9 日～10 日 第 2 部 平成 28 年 8 月 5 日～11 日
事業の概要	<p>■第 1 部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション、各種講座・アウトドア用品の展示販売 ・映画上映・写真展・山岳観光関係団体 PR ブース・各種企画・キッチンカーによる飲食提供 <p>■第 2 部 「山岳フィルムウィーク」期間中、山岳関連映画を毎日上映</p>		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	運営
	相手側	パネルディスカッション・PRブース
	市側	運営全般

【実施結果】

成果目標の達成状況	2 日間で 3,800 人余の幅広い年齢層の方に参加いただいた。
協働による効果	それぞれの立場で知識、人脈、ノウハウを活かすことができた。
課題・改善点	継続性、企画のマンネリ化、広域的な取り組み。

【事業の名称等】

事業の名称		第 33 回早春賦まつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	早春賦まつり実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係	

アルパの演奏の様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	日本を代表する叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐとともに、早春賦を愛する心を持つ市内外の人による観光交流人口の拡大を図る。普段早春賦歌碑へ来ない、知らない人にもイベントを通じて「早春賦」に関心を持ってもらう。		
事業の目的	叙情歌「早春賦」を後世に歌い継ぐ、観光客の誘客を図る。		
成果目標	県内外から来場者を集める。「早春賦」を歌い広める。		
実施場所	穂高川右岸 早春賦歌碑前	事業期間	平成 28 年 4 月 29 日
事業の概要	小学生・術文化協会コーラス部合唱、アルパクラブ演奏、会場全体による早春賦大合唱。お茶やまんじゅう等のサービス。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法の決定、当日の運営、課題抽出。
	相手側	出演者、関係団体との交渉。
	市側	各種申請・手配。関係団体との調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	毎年訪れるリピーターがいる等、深い関心を持っている来場者も多い。
協働による効果	相乗効果により多くの来場者に訪れていただくことができた。
課題・改善点	市外からの来場者を増やしたい。会場が狭いため、安全な開催に努めたい。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野オフネ祭り		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）		
実施団体	相手側	安曇野オフネ祭り関係者		
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係		

オフネ祭り会場風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野を特徴づける地域の貴重な伝統文化であるオフネ祭りは県・市を代表する祭りであるにもかかわらず、この魅力が市民をはじめ来訪者に十分伝えきれていないことと、後継者不足が課題である。		
事業の目的	県並びに安曇野市無形民俗文化財に指定されているオフネを展示し、安曇野の豊かな伝統分を来訪者に発信することを目的として実施する。		
成果目標	交流人口の拡大を図り、地域の回遊性を高めることにより、地域活性化及び経済波及効果を高める。		
実施場所	穂高神社 北神苑	事業期間	平成 28 年 5 月 1～15 日
事業の概要	県並びに安曇野市無形民俗文化財に指定されているオフネ 4 艫を展示するとともに、キャプションを用いて安曇野市内のオフネについて知っていただいた。穂高神社式年遷宮祭に併せて実施。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	イベントの企画・運営
	相手側	イベントへの参加
	市側	会場の設営・広報・庶務

【実施結果】

成果目標の達成状況	穂高神社式年遷宮祭と併せて実施したことで、多くの方にオフネを知っていただく機会となり、交流人口の拡大が図られた。
協働による効果	相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。
課題・改善点	今後に向け、イベントの実施方法について検討していく。

【事業の名称等】

事業の名称		第2回信州安曇野ハーフマラソン事業	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野ハーフマラソン実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係	

安曇野を駆け抜けるランナー

【事業の概要】

取組の背景・課題	安曇野の魅力を発信し、交流人口の拡大を図るとともに、地域経済の活性化を図るため、全国からランナーを募集するとともに、市民や事業者、行政等が一体となった運営体制を構築する。		
事業の目的	安曇野の豊かな自然やそこに暮らす温かい人々の魅力を発信するとともに、市の一体感の醸成と地域経済の活性化を目的とする。		
成果目標	全国から参加するランナーに安曇野の自然や人の魅力を感じてもらい、安曇野ファンを獲得するとともに、市民についても大会運営への参画や応援を通じ、地域に対する誇りと愛着を持っていただく。		
実施場所	豊科南部総合公園	事業期間	平成27年10月～平成28年10月
事業の概要	拾ヶ堰や安曇野の田園地帯をコースとして、ハーフマラソンを実施する。安曇野ならではの食の提供などでランナーへのおもてなしを実施するとともに、市民についても運営ボランティアや応援などに参画していただく。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	ランナーへのおもてなし、ボランティア募集、大会PR、協賛金募集など
	相手側	事業者との調整など
	市側	大会運営全般

【実施結果】

成果目標の達成状況	大会参加者の満足度も高く、500名を超える市民がボランティアに参加した。
協働による効果	双方が責任を持って自身の役割を果たすことにより、参加者に対しきめ細かな対応ができ、満足度の向上につながった。
課題・改善点	準備段階において、更なる情報交換・意見交換が必要である。

【事業の名称等】

事業の名称		第32回信州安曇野あやめまつり	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	あやめまつり実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係	

メインイベントでの会場風景

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧明科町から続くイベントで、5年前までは観光協会が主体となって開催していたが、4年前より市が主体となり実施している。 更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。		
事業の目的	水郷明科のあやめの魅力を広く伝え、永く後世に残すとともに、市内外からの誘客による交流人口拡大を図る。		
成果目標	多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。		
実施場所	あやめ公園・龍門淵公園	事業期間	平成28年6月17～26日
事業の概要	明科のあやめ公園、龍門淵公園を主会場とし、様々なイベントを実施した。メインイベント日には『こてつ』の司会により、小中学生、高校生の吹奏楽や明科高校書道部の書の披露、にじますのつかみどりなどを行った。		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	イベントの企画・運営
	相手側	イベントへの参加
	市側	会場の設営・広報・庶務

【実施結果】

成果目標の達成状況	前年と同様、約4万人の方に訪れていただくことができた。
協働による効果	相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。
課題・改善点	更なる発展に向け、協働の体制を強化していくこと

【事業の名称等】

事業の名称		第33回信州安曇野わさび祭り	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. 実行委員会 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	信州安曇野わさび祭り実行委員会 YOSAKOI 安曇野実行委員会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係	

YOSAKOI 安曇野での演舞

【事業の概要】

取組の背景・課題	旧穂高町から続くイベントで、市民一体感の醸成や交流人口拡大のため実施している。納涼祭と YOSAKOI 安曇野の2日間で構成しており、更なるイベントの充実・交流人口の拡大が課題である。		
事業の目的	穂高の夏のイベントとして定着してきた『信州安曇野わさび祭り』を通じて、観光客の誘客による交流人口の拡大を図るとともに、地域一体感の醸成を図る		
成果目標	多くの人に来ていただき、交流人口の拡大・経済の活性化を目指す。		
実施場所	穂高駅前通り・穂高神社	事業期間	平成28年8月6～7日
事業の概要	穂高地域の夏を盛り上げるイベントとして、1日目に納涼祭、2日目に YOSAKOI 安曇野を実施した。納涼祭では、分館連を中心に31連、約2,200名が穂高音頭・HOTAKA サンバを踊った。2日目の YOSAKOI 安曇野では、過去最多の53チーム、約1,200人が参加しよさこい踊りを披露した。		


【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	イベントの企画・運営
	相手側	イベントへの参加
	市側	会場の設営・広報・庶務

【実施結果】

成果目標の達成状況	踊り参加者は昨年より増えたが、来場者数は前回と同じ程度（約1万5千人）であった。
協働による効果	相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。
課題・改善点	更なる発展に向け、協働の体制を強化していくこと

【事業の名称等】

事業の名称		第48回 観光草競馬大会	
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力（協定） 3. <u>実行委員会</u> 4. その他（ ）	
実施団体	相手側	安曇野競馬愛好会	
	市側	商工観光部 観光交流促進課 観光交流促進係	

ポニーのレースの様子

【事業の概要】

取組の背景・課題	草競馬大会を開催することで動物とのふれあいの機会を設けるとともに、観光交流人口の拡大を図る。昼頃に行われるアトラクション目当ての地元の来場者が多く、市外からの来場者の誘客性が弱い。		
事業の目的	動物とのふれあいの機会を設けるとともに、観光交流人口の拡大を図る。		
成果目標	全国でも珍しい草競馬大会を通じ、観光交流人口の拡大を図る。		
実施場所	市営牧運動場	事業期間	平成28年9月27日
事業の概要	競走馬、ポニー、中間馬などによる予選レースや決勝レース、ポニー乗馬体験、小動物ふれあい広場の設置		


【協働の役割分担】

役割分担	一緒の取組	運営方法決定、当日の運営、課題の抽出。
	相手側	各種申請、関係団体調整。
	市側	各種申請、関係団体調整。

【実施結果】

成果目標の達成状況	市外・県外からの来場者をより増やしたい。3000
協働による効果	相乗効果により多くの市民・観光客に訪れていただくことができた。
課題・改善点	市外からも来場があるような企画等の開催を検討する。

【事業の名称等】

事業の名称		安曇野市里山再生計画推進事業 (「さとぷろ。」)		
協働の形態		1. 共催 2. 事業協力(協定) 3. 実行委員会 4. その他()		
実施団体	相手側	市民・事業者・里山再生サポーター		
	市側	農林部 耕地林務課 林務係(担当)		

さとぷろ。フォーラムでの積木ワークショップ

【事業の概要】

取組の背景・課題	人の手が入らなくなった里山では、松くい虫被害や鳥獣被害など様々な問題が生じています。このような問題解決に向けて、安曇野市内で生活を営む市民・森林所有者・事業者の皆さんにより、私たちの暮らしを守り、豊かにしてくれる里山の再生への取組を一緒に進めていきます。		
事業の目的	1. 多種多様な環境から成り立つ里山 2. 多くの人々が里山を資源として利用 3. 災害の少ない安全な暮らしをもたらす里山		
成果目標	多くの人々が里山に関わり、里山に目を向けること。		
実施場所	安曇野市内	事業期間	平成 27 年度 ~ 平成 31 年度
事業の概要	里山の再生につながる取組を「さとぷろ。」と呼び、市民、山林所有者、事業者の皆さんと協働しながら、里山に関心をもってもらうための取組を進めます。		

【協働の役割分担】

役割 分担	一緒の取組	取組の企画運営
	相手側	役割分担が明確に分かれていない。
	市側	事務局機能

【実施結果】

成果目標の達成状況	具体的な取組みが実施されてきた。
協働による効果	行政的な考えでなく、市民目線の発想により取組が企画運営できること。
課題・改善点	行政主導から市民主体への体制づくり

平成 29 年 3 月 31 日発行

発行元：安曇野市役所 市民生活部 地域づくり課
まちづくり推進係（本庁舎 2 階 4 番窓口）

住所：〒399-8281 安曇野市豊科 6000 番地

電話：0263-71-2494（直通） FAX：0263-72-3176